

佐治地域振興会議説明資料	
令和6年5月23日	
担 当 課 (担 当 者)	経 済 ・ 雇 用 戦 略 課 スマートエネルギータウン推進室 (大角・保木本)
電 話	0857-30-8288

令和6年度脱炭素先行地域づくり事業（佐治町エリア）計画について（報告）

脱炭素先行地域の取組として、令和6年度以降佐治町で下記の事業に取り組む計画としております。令和5年8月に台風第7号による甚大な被害を受け、事業を令和6年度以降に延期しましたが、脱炭素先行地域に伴う国の交付金が活用できる令和10年度までに着実に計画を進めます。

1. 令和6年度以降佐治町で取り組む事業（予定）

【当初計画】鳥取市脱炭素先行地域事業 スケジュール（佐治町エリア）

実施項目	事業概要	令和5（2023） 年度	令和6（2024） 年度	令和7（2025） 年度	令和8（2026） 年度	令和9（2027） 年度	令和10（2028） 年度
小水力発電事業 （佐治町木合谷川）	196kW 1基	基本設計	実施設計	整備工事		運用	
小水力発電事業 （佐治町佐治川）	300kW 1基（予定）	事業性調査 ※NEF補助事業中止	基本設計	実施設計	整備工事		運用
公共部門PPA （佐治町）	佐治町施設182kW(7件)	調査・設計	設置工事	サービス実施			
電動化×新交通 サービス（佐治町）	佐治町2基(急速充電)、5基(普通充電) EV12台、EVバス1台、蓄電池EV3台	調査	充電設備2台	充電設備5台 EV導入8台	EV導入6台		
木質バイオマス 熱電併給設備	木質バイオマス熱電併給設備1基(40kW)、2基(80kW) チップ製造所、自営線1Km	事業性評価		実施設計	整備工事	運用	
省エネ改修	佐治町一般家庭における省エネ改修	改修実施					

現地での調査、測量等が困難と判断し、6年度に延期

【変更後】鳥取市脱炭素先行地域づくり事業 スケジュール（佐治町エリア）

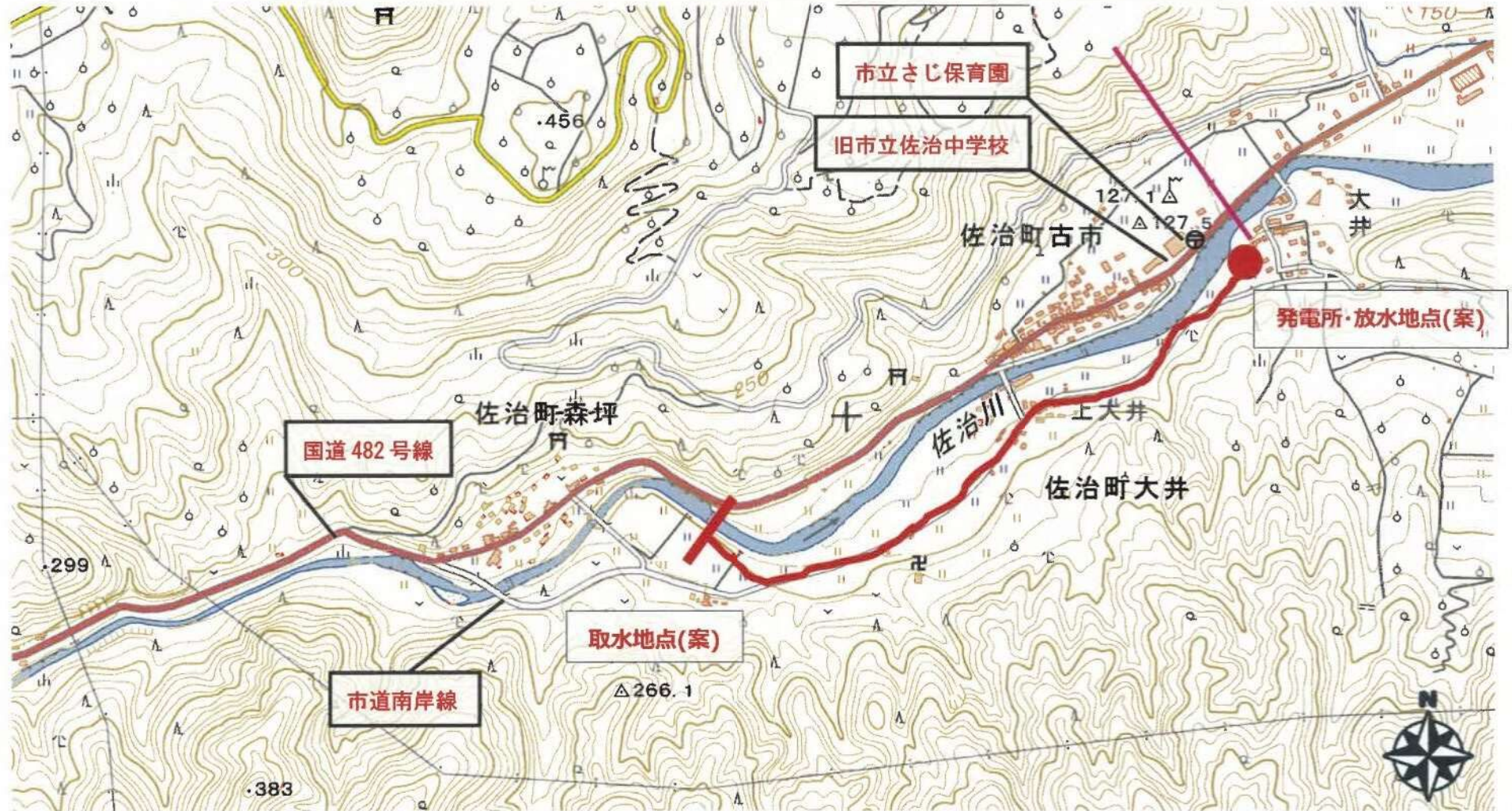
実施項目	事業概要	令和5（2023） 年度	令和6（2024） 年度	令和7（2025） 年度	令和8（2026） 年度	令和9（2027） 年度	令和10（2028） 年度
小水力発電事業 （佐治町木合谷川）	196kW 1基	事業費再精査中	地元協議 設計	実施設計	整備工事		運用
小水力発電事業 （佐治町佐治川）	300kW 1基（予定）		調査・基本設計 （NEF補助事業）		実施設計	整備工事	
公共部門PPA （佐治町）	佐治町施設182kW（7件）	調査・設計		設置工事	サービス実施		
電動化×新交通 サービス（佐治町）	充電設備、EV導入 バッテリーステーション等活用新モデル	調査・計画 （環境省事業）	実証実験 京都大学×日本総研×鳥取市コンソ設立	充電設備	EV導入	EV導入	
木質バイオマス 熱電併給設備	設備導入1基（40kW） チップ製造所、自営線1Km	事業性調査 （林野庁事業）	実施場所	実施設計	整備工事	運用	
省エネ改修	佐治町一般家庭における省エネ改修	改修実施					

2. 全体事業費（令和5年4月選定時概算額）

単位：千円

プロジェクト名	地区名	導入設備名	事業費	国交付金	交付率	企業負担	市負担 (一財)
小水力発電	佐治町	発電機器、自営線、受電設備	1,000,063	750,047	3/4	247,046	2,970
PPA（施設）、メガPV	若葉台	PV(太陽光発電設備)	1,338,370	892,247	2/3	446,123	0
	佐治町	PV(太陽光発電設備)	74,780	49,853	2/3	24,927	0
	若葉台	蓄電池	330,000	247,500	3/4	82,500	0
PPA（戸建住宅）	若葉台	PV(太陽光発電設備)	862,500	575,000	2/3	287,500	0
	若葉台	蓄電池	696,546	522,409	3/4	174,137	0
	佐治町	PV・省エネ改修	505,000	336,666	2/3	168,334	0
鳥取環境大学PV・ZEB化	若葉台	PV・ネット・ゼロ・ビル改修	1,253,198	835,465	2/3	417,733	0
電動化×新交通サービス	若葉台	EVステーション	160,000	120,000	3/4	40,000	0
	佐治町	EVステーション	80,000	60,000	3/4	20,000	0
	佐治町	EV(コミュニティバス)	34,400	22,933	2/3		11,467
	佐治町	EV(公用車)	44,520	9,360	定額		35,160
EMS・VPP構築	全体	エネルギー・マネジメントシステム構築	245,000	183,750	3/4	61,250	0
木質バイオマス熱電併給設備	佐治町	設備導入、自営線、チップ製造所	354,000	215,250	3/4	88,500	50,250
	若葉台	設備導入	289,360	179,520	3/4	72,340	37,500
合計			7,267,737	5,000,000		2,130,390	137,347
※地区別事業費	若葉台		5,174,974	3,555,891		1,581,583	37,500
	佐治町		2,092,763	1,444,109		548,807	99,847

佐治川水力発電事業性評価調査・発電事業者公募事業（案）



出力：最大 500kW 程度（案）

年間発電量：約 273 万 kWh（一般家庭約 500 世帯分）



記者発表資料	
令和6年5月17日	
担当課 (担当)	鳥取市経済・雇用戦略課 スマートエネルギータウン推進室 (大角・和田)
電 話	30-8288 (内線 7516)

佐治地域での地域おこし協力隊採用について

全国2例目！デジタルコミュニティを掛け合わせた「地域おこし協力隊 DAO」に取り組みます

本市は、佐治地域において、web3.0（※1）技術を活用した新たな「デジタルコミュニティ」と地域おこし協力隊を掛け合わせて地域を活性化する革新的なサービス「地域おこし協力隊 DAO（ダオ）（※2）」により取り組みます。

「地域おこし協力隊 DAO」は本市ふるさと納税の返礼品としてデジタルアート「ふるさと納税 NFT」を提供した実績のある企業、(株)あるやうむ（北海道札幌市）が今年度から全国で初めて開始したサービスで、本市は北海道余市（よいち）町（令和6年4月1日開始）に続く、全国2例目となります。

1. 背景・概要

佐治地域では、地域おこし協力隊を活用し、新たな交流人口及び関係人口を拡大し、地域ブランド力の向上を図る取組を行い、将来的には佐治地域での脱炭素先行地域づくりにも関連して、再生可能エネルギーを活用した農業経営の展開や脱炭素推進等につなげていくため、(株)あるやうむが取り組む「地域おこし協力隊 DAO」を活用し、地域おこし協力隊員本人だけでなく、隊員が所属する DAO メンバーもオンラインで関わっていき、「デジタル応援団」を増やしていくことで、人口減少が進む佐治地域の活性化に向けたアイデアの創出を図っていきます。

地域おこし協力隊員は、DAO 推進のトップランナーとして活躍されている方を令和6年10月から採用し、先進的なデジタル技術を活用したデジタルコミュニティの仕組みにより、これまでにない形で地域住民のみならず全国の DAO メンバーが一体となった事業を進めていくことで、地域により多くの賑わいや魅力が生まれ、地域課題の解決に繋がっていくことが期待されます。

2. 地域おこし協力隊 DAO とは

DAO は、メンバー全員が対等な立場で意思決定に関わり、それぞれの能力を最大限に発揮できる場を提供するものです。先進的なテクノロジーを活用することで、透明性が高く、効率的な運営を実現することができ、メンバーが自由にアイデアを共有し、創造性を発揮できるサードプレイスとしての役割も果たします。多様なバックグラウンドを持つ人々が集い、刺激し合うことで、イノベーションが生まれる場となります。

(株)あるやうむが運営する「地域おこし協力隊 DAO」は、こうした理念を体現するデジタルコミュニティで、みんながイキイキと活躍できる場を提供することで「新たな関係人口創出」に寄与し、メンバー間の交流から生まれる斬新なアイデアと柔軟な行動によって実施される施策が「地域課題の解決」に繋がることを目指す革新的な地域活性化モデルです。

DAOによる関係人口創出&地域課題解決フロー

phase1 立ち上げ・参加促進

- ・DAOの目的、テーマを定め、参加促進
- ・全国から参加(web3.0リテラシーの高いメンバー)
- ・地元から参加(地元課題を実感するメンバー)

phase2 交流&企画立案

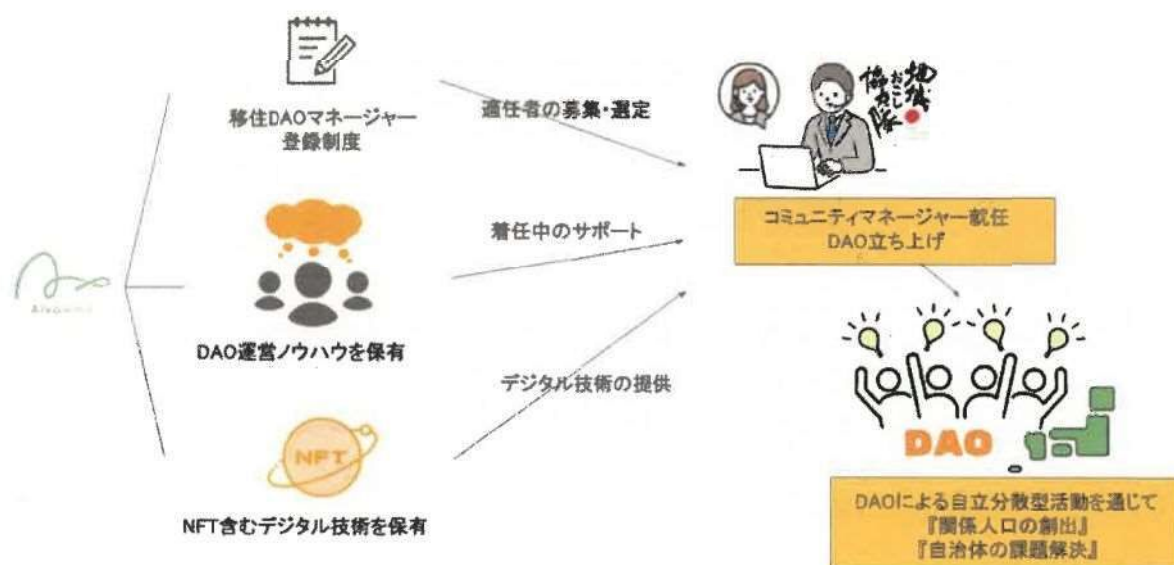
- ・チャットツールを活用して活発な交流と意見交換
- ・全国メンバーと地元メンバーとの科学反応から多種多様な革新的な企画案が生まれる
- ・実行する施策をメンバー間で選択する

phase3 施策実行

- ・DAOの合意に基づいて自律的かつ分散的に革新的な施策を実行することにより、地域課題解決
- ・DAOでの活動を通じて、参画するメンバーの自治体への愛着心が向上し、強固な関係人口を構築



『地域おこし協力隊DAO』スキーム



【出典：(株)あるやうむ】

3. 用語解説

※1：web3.0は、ブロックチェーン技術を使って、よりセキュアで分散化されたインターネットを目指す概念。個人情報管理や取引の透明性が高まり、ユーザー中心のウェブ体験が可能になる。AIや仮想現実などの最新技術も活用されている。Webの歴史から見るとweb1.0は「一方通行」(新聞やテレビ)、web2.0は「双方向性」(SNS) web3.0は「分散・所有」(ブロックチェーン・NFT)と捉えることができる。

※2：DAOは、Decentralized Autonomous Organization (分散型自律組織)のこと。メンバー全員が対等な立場で意思決定に関わり、それぞれの能力を最大限に発揮できる場を提供するもの。先進的なテクノロジーを活用することで、透明性が高く、効率的な運営を実現することができる。